

女優／元宝塚歌劇団雪組トップ娘役

舞羽美海さん

Mimi Maihane

— 舞羽さんは元宝塚歌劇団雪組主演娘役。小さい時からタカラジェンヌを目指しておられたのですか。
宝塚歌劇の大ファンでした。はっきり覚えているのは4歳のころからです。ジェンヌさんのファンで、楽屋での入り出待ちもするほどでした。そして、高校生のころ、進路を考えたときに、「ファンだった方が見ていた世界を私も見たい！舞台に立ってみたい」と思い、宝塚音楽学校の受験のために、レッスンを受けるようになりました。

— 長年のファンで、自らも舞台に立られているわけですが、舞羽さんが思う「宝塚歌劇の魅力」とは？
やっぱり豪華絢爛なところですよ。舞台のどこを見ても華やかで、夢の溢れる素晴らしい場所です。舞台を観ることが活力になると思いますし、例えるのならパワースポットのような場所です。

— 宝塚歌劇の衣装は本当に豪華ですね。
スカートの裾のレースにまでこだわって衣装部の方が作られ、開

演ギリギリまで衣装の調整をしています。あれだけ豪華な衣装を着られるのは本当に幸せなことですし、憧れていた方と同じ衣装を身につけるときは感無量です。

— タカラジェンヌになるには？

宝塚音楽学校に入り、2年間修了すれば、宝塚歌劇団に入団して、舞台に立つことができます。2年間の音楽学校生活では同期との絆が生まれます。ケンカもし、ぶつかったりすることもあります。一人が失敗すれば、同期50人全員で謝るこ

とになるので、みんなでサポートし合います。一人でも欠けると、舞台が混乱します。後から考えると、全て良い舞台を作り上げるための教えだったのだと感じます。みんな宝塚歌劇が大好きで、だからこそ、頑張れるのだと思います。

—— 宝塚歌劇のモットーは「清く正しく美しく」ですが、音楽学校でもその教えはあるのですか。

「清く正しく美しく」が全てです。入学してまず一番に教わりますし、校舎、劇場や様々なところにこの言葉が掛けられています。どんな時も

忘れず、表面的な言葉ではなく内面から溢れるように、体にしみ込ませるように、教えを受けます。

—— 宝塚音楽学校の受験は狭き門で、毎年、合格発表がニュースにもなりますが、具体的な試験内容はどのようなものですか？

実技と面接でした。実技は歌とダンスです。面接は難しいことを聞かれる訳ではなかったです。足のサイズや家族構成を聞かれただけなんですよ（笑）。でも、振り返ってみると、ちゃんと声を発せられるか、笑顔で話せるかなどを見られていたのかなと思います。

—— 舞台上でも、今お話いただいている中でも感じるのですが、声がよく通りますよね。

特別なレッスンをした記憶はないんです。小学校のころから「教室の中で声の大きい子」でしたし（笑）、高校ではバレエ部で、体育館の中でずっと声を出していましたから、それで鍛えられたのかもしれませんね。

—— 最初から娘役志望だったのですか。

私は男役さんになりたかったんです（笑）。ファン時代は、いつも男役さんの真似ばかりしていたのですが、身長が伸びなかったのですが、泣く泣く娘役を目指すことになりました。でも、音楽学校に入学してすぐに娘役のほうが合っていると思いました。舞台上の役割として、男役さんは引っ張る立場、娘役はそれを支える立場となるのですが、自分の立ち位置としては娘役のほうがしっくりきましたね。

—— 2007年に宝塚歌劇団に入団されましたが、心がけてきたこと

はありますか。

無我夢中でしたね。与えていただいた役をいかに乗り越えるかを考えていました。壁や試練を与えていただき、成長できる場面が多かったことに感謝しています。アドバイス下さる方、怒って下さる方、導いて下さる方など、周りの方々に引っ張って導いていただいたからこそ、頑張れたと思います。自分を信じるために練習、練習の毎日でした。

—— つらかったことも？

練習が辛いということはないのですが、練習を重ねてもなかなか結果が出ないこともあり、自分の実力が伴わないことが辛かったです。でも、「あのとき頑張ったからだね」と後に声をかけていただいたときは、本当に嬉しかったです。

—— その後、2011年に雪組主演娘役に就任されました。主演コンビは「組の顔」だと思うのですが、やはり心境など変化はありましたか。

相手役の音月桂おとづきけいさんは私が宝塚歌劇団に入団したときには、すでにスターさんであり、とにかくご迷惑をかけないように努めました。音月さんは、とても明るく、皆を引っ張って下さる方でしたので、同じように出来るよう、心掛けていました。

それまでも頑張ってきたつもりでしたが、それまでのスピードではダメだと思いましたし、もっと早く表現に繋がられるよう、気持ちを引き締めました。

—— 超多忙な生活だったと思いますか。

忙しかったです。私は、いろいろな仕事を体験させていただく





のが楽しかったです。大変だったことといえば、相手役さんに合わせた衣装がたくさん必要なので、(宝塚はセルフプロデュースをしなければならない。) 休日はいつも洋服やアクセサリーを探しに出かけていました(笑)。衣装の髪飾りなどのアクセサリーも自分で作りますので、上級生に教わったり、資料を見て舞台の研究もしていました。

—— 公演前のルーティンや意識していることは?

私は同じことをして過ごすのが好きですね。毎日、緊張と不安だらけなので、念入りに自分の身体と向き合います。お化粧品はパパッと済ませて(笑)、ウォーミングアップを念入りにする方だと思います。

—— 練習などで怪我をされることもあるかと思いますが。

舞台にあがれば、一気にアドレナリンが出る感じで、痛みやつらさを忘れてしまうんですよ。それ

に、何があってもお客様の笑顔と拍手で救われます。

—— 周りの方からは、どのような人だと言われますか。

友人からは天真爛漫だと言われます。あと、現場では「元気だね」と言われることが多いです。なんだかこの質問は恥ずかしいです(笑)

—— 今日もずっと笑顔でお話くださって、天真爛漫という言葉がぴったりだと思います!

そう言っただけなのは嬉しいです。宝塚音楽学校に入っすぐの頃、「人は自分の鏡」だと教えて頂いて、それ以来、その言葉を胸に自分から率先して笑顔を届けられる人でいたいと思っています。

—— 宝塚歌劇団で学んだことを挙げるとすれば?

日々、全力で向き合うこと、全力で生きることでしょうか。入団時の雪組トップスターである水夏希^{みづなつき}さんからは、舞台に向き合い、

新鮮に毎日を生きるということを教わりました。どう過ごすかは自分次第、後悔なく、時間を過ごすことを学びました。

—— 現在は女優として活動されていますが、宝塚との違いは?

毎公演、「はじめまして」から始まることは、宝塚にはない感覚でした。でも一番は、現場に男性がいるということでしょうか(笑)。宝塚では、先生(演出家)と生徒という関係性が強く、先生の思い描くものや世界観に生徒が乗り、いろいろなものをぶつけながら作り上げていくという感じです。退団後は、自分に委ねられることが多く、以前よりもリアリティを求めるようになりました。演じる上で、やはり違いはありますね。ただ、表現の場としてはいつも全力でさせていただきます。

—— 弁護士役をされたことは?

あるんです(笑)。ドラマで新人

弁護士をさせて頂きました。「新人」という部分に助けられました。本当に緊張しました。馴染みのない言葉もありましたし、法廷のセットに入ると、台詞が言えないほど圧倒されてしまいました。ベテランの方も「この場は緊張するよね」とおっしゃっていて、毎日、それを経験されている弁護士さんはすごいなと思いました(笑)。

(インタビュアーの弁護士に向かって) 日頃、緊張されますか? 人の人生のかかった場面では言葉一つ一つに気をつけないといけないですよ。

— 逆インタビューですね(笑)。もちろん緊張しますし、一度発した言葉は消えないので、気をつけています。舞羽さんですら圧倒されるということなので、それほどに裁判所が「非日常的な空間」だということがよく分かりました。また、弁護士役をしてみたいと思えますか。

是非、やってみたいです。次はできれば「新人」を抜いて(笑)。法廷では凜とした、依頼者が頼れる弁護士像を掘り下げたいですね。

— 弁護士に対してどのようなイメージをお持ちですか。

凜として、たくさんの知識を持ち、「完璧」というイメージがありました。ただ、実際にお目にかかると、気さくな方も多いので、やはり色々な方がいて欲しいですね。

— もしも、ご自身が弁護士に相談するとすれば、どんな弁護士がいいですか。

いい意味で壁がなく、全てをさらけ出せる人です。その瞬間は、自分の人生を任せる訳ですし、信頼

関係を築ける人がいいです。

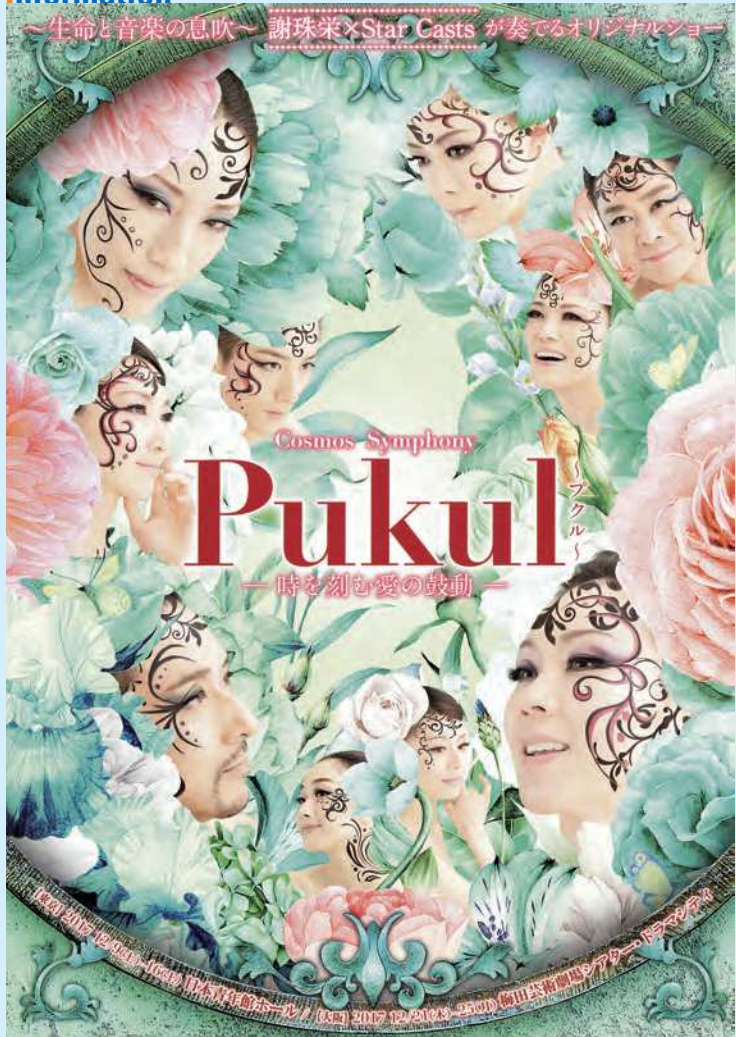
— 今後、女優としてどんな役に取り組みたいですか。

まだまだ出会ったことのない役柄が沢山あるので、どんな役にも挑戦し続けたいですし、女優として、観て下さる方へのアプローチ

に妥協せず、向かい合っていきたいです。正統派の役が多いので、悪役にも挑戦してみたいですね。

（インタビュー：小島幸保、矢加部 毅
衣装協力：オシャレウオーカー
衣装協力：La Chou Chou
スタイリスト：TOCO
写真撮影：高廣信之

Information



幻想的な神々の調べと舞踏に誘われ
時を超え宇宙と生命を旅するショー

2017 12/9【土】-16【土】
東京 日本青年館ホール
チケット料金(全席指定込)：S席11,000円 A席7,000円

2017 12/21【木】-25【月】
大阪 梅田芸術劇場
チケット料金(全席指定込)：全席11,000円

Official Site

